

国語 4 書写

4 竹内さんは、行書で「夢と希望」という文字を書いています。次の「最初に書いた文字」、「友達や先生からの助言」、「書き直した文字」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【最初に書いた文字】



【友達や先生からの助言】

行書の点画の書き方に気を付けて書いてみたが、どうでしょうか。



竹内さん

全体的に行書の特徴を踏まえて書くことができていると思います。ただ、漢字のバランスが悪いような気がします。先生、どうでしょうか。

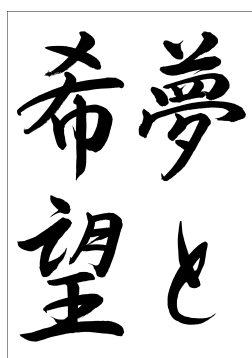


青山さん

漢字については青山さんの言うとおりですが、ひらがなの「と」についても課題がありそうですね。



先生



【書き直した文字】

一 【最初に書いた文字】について、青山さんは「行書の特徴を踏まえて書くことができている」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 ②の部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができている。
- 2 ④の部分は、楷書と同様に点画を直線的に書くことができている。
- 3 ⑤の部分は、点画を省略して書くことができている。
- 4 ⑥の部分は、点画を連続して書くことができている。

二 【最初に書いた文字】について、青山さんは「漢字のバランスが悪い」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 画数の多い「夢」が他の文字より小さい。
- 2 画数の少ない「希」が他の文字より大きい。
- 3 「望」について部首と他の部分が離れすぎている。
- 4 「希」と「望」について行の中心がずれている。

三 【書き直した文字】の「と」の書き方について説明したのとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 全ての線が直線的になるように意識した書き方。
- 2 線が連続するように意識した書き方。
- 3 漢字より大きくなるように意識した書き方。
- 4 筆圧が一定になるように意識した書き方。

出題の趣旨

- ・ 行書の特徴を理解すること
- ・ 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること
- ・ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること

〔知識及び技能〕の「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「書写」について、中学校では、文字を正確に読みやすく書くことができるという、文字の伝達性を重視した指導が求められる。文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、小学校と同様に、書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かす態度を育成する必要がある。また、毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うことをねらいとしている。そのため、各学年に示されている書写の授業時数に応じて、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して、適切に設定することが求められる。書写の指導を取り上げて計画する場合には、〔知識及び技能〕や〔思考力、判断力、表現力等〕の指導と関連させた指導計画になるように配慮することが重要である。その際、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を構想することも大切である。

本問では、行書で書いた文字について、よい点や改善点を話し合い、友達や先生からの助言を生かして修正する場面を設定した。行書の特徴を踏まえた書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方などについて考えることを求めている。

設問一

趣旨

行書の特徴を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

エ(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

《書写》

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
4	—	1	1と解答しているもの	39.5	◎
		2	2と解答しているもの	9.0	
		3	3と解答しているもの	43.5	
		4	4と解答しているもの	7.1	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.9	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2～4の反応率の合計は、59.6%である。このように解答した生徒は、漢字の行書の基本的な書き方についての理解に課題がある。

解答類型2の生徒は、行書と楷書の違いについて理解できていないものと考えられる。解答類型3、4の生徒については、行書における「省略」、「連続」が理解できていないものと考えられる。また、解答類型2～4の生徒は、「点画」の意味が理解できていないものとも考えられる。

3. 学習指導に当たって

楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く

直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。その際、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。また、筆脈を意識した点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。

例えば、同じ文字を楷書で書いたものと行書で書いたものとを比較したり、点画の連続や点画の省略、筆順の変化などの行書の特徴が、実際に行書で書いた文字のどの部分に表れているのかを確かめたりする学習活動が考えられる。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

授業アイディア例 楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く

【課題の見られた問題と学習指導要領における内容】

設問一 正答率 39.5%

〔第1学年〕知識及び技能 (3)

エ(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

学習の流れ

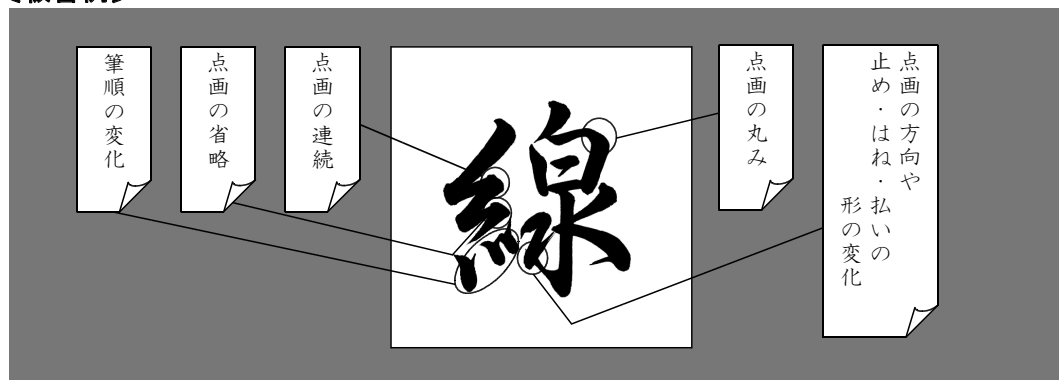


教師

これまで学習してきた行書の特徴を踏まえ、書いた作品のよい点や改善点について話し合います。まずは、「線」という字を例にして、行書の特徴を確認してみましょう。

※ 例に示す字については、教師がその場で書いてもよい。

【板書例】

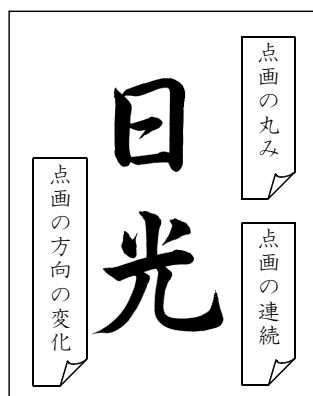


ポイント

それぞれが書いた作品のよい点や改善点について、行書の特徴を表す言葉を使って交流しましょう。



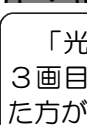
〔Aさんが書いた文字の例〕



〔Aさんが書いた文字について交流する場面の例〕



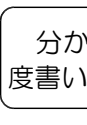
「日」の字からやわらかい印象を受けるのは、折れの部分に丸みがあるからですね。



「光」が楷書のような書き方になっていますね。2・3画目の点は、筆脈に気を付けて、連続するように書いた方がよいと思います。



筆脈の視点で考えると、「光」の左払いは、方向が変化すると思います。次の画へ向かうことを意識して書いてみてはどうでしょうか。



分かりました。皆さんからの助言を生かして、もう一度書いてみます。



Aさん



よい点や改善点が具体的に指摘できましたね。これまで学習してきた行書の特徴に着目しているからですね。

〔単元の振り返りの場面の例〕



今回の学習で、自分が、行書の特徴のどのような点を特に意識して書いたのか、振り返ってみましょう。そして、行書の特徴を生かして書けるようになった漢字を硬筆で書きましょう。

〔生徒が書いた振り返りシートの例①〕

漢字の行書	振り返り
	省略を意識して書くことで、行書が楷書よりも速く書けることを実感しました。ただ、人に読んでもらう字を書くときには、読みやすく書くことも意識したいと思います。「初」がうまく書けるようになったので、年賀状で書いてみたいと思います。

〔生徒が書いた振り返りシートの例②〕

漢字の行書	振り返り
	今回の学習では、点画の連続や方向の変化を意識して書きました。筆脈に気を付けることが、行書で書くときには大事だと思いました。自分の名前も、行書で書けるように練習してみます。

※ 学習の振り返りは、単元の終末だけでなく、必要に応じて単元の途中で行うことも考えられる。
また、学習内容に応じて、以下のような振り返りの観点も考えられる。

振り返りの観点の例

- 前時までに学習したことで、本時の学習に生かしたことは何か。
- 本時（や本単元）で工夫しようとしたが、十分ではなかったことは何か。
- 本時（や本単元）で感じた行書のよさは何か。
- 今後、どのような場面で行書を使いたいか。
- 行書の特徴を踏まえて身近な文字を振り返ったときに、どのようなものが行書で書かれているか。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第2学年で、「(3)我が国の言語文化に関する事項」のウ(ア)の指導事項について指導する場合には、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書くことができるように、本アイデア例の【板書例】などを活用するとともに、小学校から学習してきた漢字の楷書とそれに調和した仮名の書き方を踏まえて指導することが考えられる。
- 第3学年で、「(3)我が国の言語文化に関する事項」のエ(ア)の指導事項について指導する場合には、文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くことができるように、振り返りシートの生徒の記述などを踏まえて授業を構想することが考えられる。また、授業を構想するに当たって、生徒の実態を把握するために「振り返りの観点の例」を活用することも考えられる。

設問二

趣旨

漢字の行書の読みやすい書き方について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

《書写》

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
④	二	1	1と解答しているもの	2.3	
		2	2と解答しているもの	2.3	
		3	3と解答しているもの	4.2	
		4	4と解答しているもの	90.2	◎
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型1～3の反応率の合計は8.8%である。このように解答した生徒は、「漢字のバランス」について「行の中心」に注目して捉えることに課題がある。

3. 学習指導に当たって

字形を整え、文字の大きさ、配列などに注意して書く

行書の文字に書き慣れ、各教科等の学習や生活の中で読みやすく速く書くためには、漢字の行書の基礎的な書き方を理解し、読み手への伝達を意識して書く必要がある。その際、これまでの書写の学習で身に付けた知識や技能を生かし、字形や文字の大きさ、配列などに配慮して書くように指導することが大切である。

例えば、行書で身近な文字や文章などを書く学習の中で、どこをどのようにすると読みやすくなるのか、修正のための具体的な方法を助言し合ったり、助言を基に実際に修正したりする学習活動などが考えられる。

設問三

趣旨

漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

《書写》

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
4	三	1	1と解答しているもの	5.5	◎
		2	2と解答しているもの	81.3	
		3	3と解答しているもの	4.5	
		4	4と解答しているもの	7.5	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	1.1	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1、3、4の反応率の合計は17.5%である。このように解答した生徒は、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方の理解に課題がある。【書き直した文字】の「と」が、「線が連続するように意識した書き方」になっていることを理解できていないものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

筆脈を意識して、漢字の行書と仮名を調和させて書く

漢字の行書とそれに調和した仮名を書くためには、筆脈を意識して、行書の特徴に調和する仮名の書き方を理解して書くことが大切である。その際、楷書に調和する平仮名の書き方を踏まえ、一層筆脈を意識して書くよう指導することが重要であり、行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解できるように、毛筆を活用することが有効である。

例えば、これまで学習してきた楷書と仮名の調和した書き方を確認し、行書で書く場合はどのようにすればよいのかを考えるなどの学習活動が考えられる。その際、第1学年で楷書で書いた語句を行書で書いてみるなどして、楷書、行書を問わず漢字と仮名を調和させて書くために共通して配慮すべきことと、それぞれの書体に応じた配慮すべきことを具体的に理解できるように指導することが効果的である。